

平成19年度 健康・学校環境衛生講習会 報告書

河添 真一

日時；平成19年8月5日（日） 9：00～15：00

場所；サンホテルフェニックス（宮崎県） 国際会議場ホールA

出席者；中本光子，河添真一

講義 1 「学校における飲酒防止教育」

前文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課健康教育調査官

兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 臨床・健康教育系教授 鬼頭 英明 先生

- ・ 前回(平成12年)調査より、“飲酒・薬物乱用ダメ”の意識が上昇している。
- ・ 飲酒への興味は男子よりも女子の方が大。果実酒，甘いお酒が発売されている影響
- ・ 冠婚葬祭の席で、大人からお酒を勧められる。飲酒防止教育がやりにくい。
- ・ 未成年飲酒禁止法で縛られているのではなく、守られているんだという指導。
- ・ 未成年者の飲酒による健康影響の認識度は低い。このような観点からも、学校における飲酒防止教育は重要。その際はあくまでも、一次予防の立場から働きかける事。
- ・ 学校教育のみならず、家庭や地域社会との理解と連携が必須。

講義 2 「未成年者の飲酒と健康」

独立行政法人国立病院機構久里浜アルコール症センター 副院長 樋口 進 先生

- ・ 4年ごとに、未成年者の飲酒実態調査(1996年，2000年，2004年，2008年)
1996～2004年の8年間で、中高生の飲酒・喫煙率が減少。
(理由)自動販売機の数が増加，タバコを吸う子供が増加
家庭で飲酒をする人が減少，友達がいない
- ・ アルコールの分解速度は肝臓の大きさ(身長)に比例する。
- ・ 脳が成熟するのは20歳。未成年の飲酒は、神経細胞の数の減少，脳萎縮の影響大。
感情優位で行動してしまう。危険な行為に走りやすくなる。
- ・ 妊娠，出産と乳児の発達…胎児性アルコール症候群(FAS)の影響
- ・ 子供達は、未成年の飲酒・喫煙はダメという知識は十分持っているが、それが行動に移るには多面的(学校・家庭・地域など)な教育が必要。

講義 3 「酒類企業と社会的責任(CSR)」

サントリー株式会社 CSR推進本部ARP室専任部長 高梨 健 先生

- ・ 酒類業界活動具体例
 - a.未成年者飲酒防止
「お酒は二十歳を過ぎてから」の注意表示，中高生向けビデオ教材配布等
保護者・指導者用，児童生徒用のパンフレット配布（サントリー独自の活動）
若者への広告の影響に配慮する（広告媒体・時間帯の更なる制限）
 - b.飲酒運転防止
飲食店への注意ポスター配布
- ・ 国際協力による自主規制の進化…アジア・西太平洋地域 自主規制ワークショップ開催

講義 4 学校環境衛生の今日的課題（研究課題報告）

・「児童生徒が抱えるアレルギー様症状等の実態について」

愛知県学校薬剤師会 副会長 木全 勝彦 先生

- ・アレルギー疾患を抱えている児童生徒が増加。（ある 48% なし 52%）
皮膚，呼吸器のアレルギー：小学生に多い
目，鼻のアレルギー：中学生に多い
- ・花粉，黄砂飛散時の学校生活
教室の換気は窓開けより人工換気装置で。
体育，清掃活動時は、マスクやゴーグル等の着用も考慮。
- ・おしゃれ障害：化粧，パーマ液，アクセサリーによる金属アレルギー

・「ダニアレルゲン検査簡易測定法について」

宮崎県薬剤師会 学校保健部 延岡支部 佐藤 和俊 先生

- ・測定法
匹数計測法：正確だが、熟練した技術と時間・労力が必要。
酵素免疫測定法(ELISA法)：簡単だが、高価。
- ・簡易測定法とELISA法との比較
 - a．マイティーチェッカーとELISA法
32サンプルを5人のパネラーが個別に判定 完全一致が16サンプル(50%)
 - b．アカレックステストとELISA法
43サンプルを5人のパネラーが個別に判定 完全一致が9サンプル(21%)
 - c．a，bにより得た各サンプルの判定結果や、ダニアレルゲン量のピアソン積率相関を計算し、有意性を評価。
 - d．マイティーチェッカーとアカレックステストとの相関係数 $r = 0.747$

相関係数(r)	解釈
0.0～0.2	ほとんど相関関係がない
0.2～0.4	やや相関関係がある
0.4～0.7	かなり相関関係がある
0.7～1.0	強い相関関係がある

・まとめ

いずれの簡易測定法も、ELISA法による測定結果との相関性が高い。
信頼性が高い。

・「日本学校薬剤師会学校環境衛生委員会から調査結果発表」

日本学校薬剤師会 学校環境衛生委員会 副委員長 宮下 元樹先生

- ・22都道府県から送られてきたダニ・ダニアレルゲンの検査結果データを集積。
検査場所 1996カ所中、不適合率は18.2%
保健室：ベットマット(43%)，枕(37%)，敷き布団(21%)，床・カーペット(14%)
保健室以外：放送室の床・カーペット(31%)，校長室の床・カーペット(25%)
- ・ダニ数は、6～8月がピーク，アレルギー数は、8～10月がピーク
- ・測定時には、温度・湿度の測定も必要。